

道元禪師の風格

鷲尾順敬

道元禪師と云へば、今から凡そ六百八十餘年前に寂せられた。即ち後深草天皇の建長五年、それは幕府執權北條時頼の時代である。その年の八月廿八日、五十四歳で寂せられた。その八月廿八日は、太陽曆の推歩では、九月廿九日になるが。今日禪師の法孫では、この日が忌日とせられてゐる。今日こゝではその日を繰り上げて、禪師を記念し、追憶し、禪師の風格について話したいのである。

實はこゝで、私は日本の文化の歴史から見て、禪師の風格を話したいのである。道元禪師は、日本の文化の歴史の上で、極めて靜寂、即ち靜かではあるが、甚だ嚴肅、即ちおごそかな位地を保つてゐられる。禪師の一生は、鎌倉時代の初期から中期に互つてゐるのであるが、この時代は、日本の社會が大に動搖し、變遷してゐる。殊に文化の歴史から見れば、漸次に新しい文化が築かれやうとしてゐるのである。禪師は、この間にあつて、新しい文化の精神方面に、偉大なる事業を擧げられてゐるものと見らるゝのである。

先づ禪師の經歷を一言しましやう。

道元禪師は、京都の名門久我氏から出で、早くに父を喪ひ、母をも喪はれた。幼より一門の榮譽に意を留むることな

く、出家得度し、比叡山に登り、尋いで三井の園城寺に入つて、學問修行せられた。所が、當時、日本の佛教界は大に動搖してゐる。三百餘年以來、佛教界の中心となつて興隆した比叡三井は當時、この熱誠眞摯なる求道者が、靜に學問修行し難い狀況であつた。

それで平安朝時代の末から、佛教界は大に新機運が動いてゐる。殊に注目すべきことは、比叡山の學僧等が、山を下つて、遠く海を踰えて、宋に入り、大陸の教學を探求することである。當時國際的には、交通は絶えてゐるが、學僧等は、續々商人の便船に依つて、宋に入つてゐる。即ち比叡山の學僧覺阿、榮西等が、宋に入つて、新しい消息を傳へてゐる。覺阿と云ふ僧のことは、宋で大に聞えたもので、當時彼地の著名なる禪僧が盛に推稱してゐる。榮西禪師は、一度ならず二度まで宋に入つて、大陸の教學を探求し、新に臺州の天台山から禪宗を傳持せられたのである。

それから攝津の三寶寺の大日能忍は、宋の禪宗のことを聞いて、日本で達磨宗を首唱し、弟子を明州の阿育王山寺の拙菴禪師の證明を求めたのである。

宋の佛教の狀況が、我國に聞えて、遙に歸向してゐた平重盛が、阿育王山寺に黄金を寄進したことがあり、その後、源實朝が阿育王山寺に參詣しようとして大な船を造つたことが聞えてゐる。

さて道元禪師は、比叡三井を歴遊して學問修行してゐられたが、宋の佛教の形勢を傳聞せられて、自ら感奮せられた。殊に榮西禪師が宋の佛教を探求して、京都に建仁寺を開き、新しい宗風を興さうとせられてゐることも見聞せられては、必ず大に感奮せられたことであらう。榮西禪師に値はれたとも云はれてゐるが、それはよく判らない。榮西禪師の高弟である明全と云ふ僧を訪うて、宗風を探り、これは無上の佛道を正傳せられてゐる。敢て餘の輩の及ぶべきでないと云ひ、

それから遂に明全と相伴つて京都を出發し、宋に渡らるゝのである。

それは後堀河天皇の貞應二年で、道元禪師が二十四歳の時である。

當時、宋は國勢が衰傾してゐるが、學問宗教は活氣があつて、振興してゐる。佛教は禪宗が勢力があり、高僧が輩出してゐる。

道元禪師の一行は、明州慶元府に着し、始めて宋の佛教を探求せらるるのである。宋の禪宗の五山である明州の天童山、杭州の徑山等^{きんざん}を歴遊して、諸高僧を歴訊せられた。

乃で禪師は日本の佛教界にあつて學問修行せられたところは、大に異つてゐることに感嘆せられてゐる。それは禪師が後に言はれてゐるが、つゞまり佛教は理論でない、實踐である。教學でない、修行である。言句でない、意識である。意識の覺醒である。これが禪師が宋の佛教を探求し、初めて大に感發せられたことである。諸方に遍參して後に天童山にかへり、如淨禪師に師事し、熱心に參究せらるゝのである。如淨禪師は、道元禪師を接得し、尤も心力を盡し、遂に大法を附屬せらるゝのである。道元禪師は、一生參學の大事こゝに終りぬと云はれてゐる。然かし禪師が一生參學の大事と云はるゝは何であつたか。如淨禪師は、身心脫落、脫落身心と云はれてゐる。道元禪師は、後に空手にして故郷に還つたと云はれてゐるのであるのである。

それで後堀河天皇の安貞元年、禪師は如淨禪師の下を辭して歸航せられた。宋に歴遊せられたこと四年で、この時、禪師は二十八歳であられる。

明全は、天童山に滯留の間に偶々病を獲て寂せられた。道元禪師は明全の遺骨を負うて歸航せらるゝのである。まづ京

都に入つて建仁寺に行李を卸さるゝのであるが、四年前に明全を訪うて大に語られた堂舎はあるが明全は遺骨となつた。道元禪師の感懐が限りないことであつたであらう。禪師は乃ち明全の遺骨を安して供養の法會を嚴修せらるゝのである。

當時京都は、壽永二年に平家が没落してから、四十餘年になり、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて、政治の實權が東國の武家源氏に歸したが、頼家、實朝は僅に空職を守り、實朝が禍害にかゝつて、天下三代春の雪の如く消え、實權が北條氏に歸し、承久の變は、京都を動轉したが、幕府の地位を確立することゝなつたもので、この四十餘年間に、社會人心の動搖變遷は、大に驚くべきものであつたが、漸く時代は回轉した。それで平安朝の末から鎌倉時代の初にわたり、京都を中心として、社會は動亂し、人心は不安に陥つてゐた。この際佛教界に、諸高僧が輩出して、大に教化せられてゐる。日本の佛教史の黄金時代と云はれてゐる。それが幕府の時代に入つて、漸く三十年となり四十年となり社會の形勢が變遷し、人心の趨向が漸く安定せんとしてゐる。そこに自ら精神方面の堅實なる氣運がつくられんとしてゐる。それが鎌倉時代の文化建設に、一脈の生命を賦與するものでなければならぬ。

この際、宋の文化の輸入は、著大なる新勢力を加ふるものである平安朝時代の末期以來、宋の文化の輸入が、漸く學僧等に依つて實現せられてゐる。殊に宋の佛教を探求することは、日本の佛教界に、著大なる刺撃を與ふることゝ、それが道元禪師の人格事業に依つて重大なる意義が見らるゝのである。

道元禪師は、宋から歸つて、一時建仁寺に滞留せられたが、漸く後に山城の深草に幽棲せられた。こゝで始めて宋の佛教の風儀に依つて、坐禪修行せらるゝのである。禪師は枯淡な生活をなし、深草の閑居に夜雨の聲を聞いてゐると云はれてゐる。然かし實はこの間に、辨道話等を著はされてゐる。禪師の嚴肅にして深大なる精神生活が、是等の著作に依つて

窺はるゝのである。この間に四來の諸弟子が教養せられてゐる。

それから後嵯峨天皇の寛元元年七月に、京都の地を發し、越前志比莊に入つて道場を開かるゝのである。それは檀越波多野義重の領地に請待せられたのである。これが今の永平寺である。遠く北條時頼の請待に依つて一度鎌倉に赴かれたことがあるが、禪師はこゝを常住の根本道場とせられ、鎌倉から歸つて見れば、この山の風景は、一しほうるはしいと喜ばれたのである。この道場で、幾多の垂示著作をなし、熱誠なる弟子を接得せられたのである。

禪師の山居の詩偈がある

西來祖道我傳東、釣月耕雲慕古風、世俗紅塵飛不到、深山積雪草菴中、

後深草天皇の建長五年七月に病を獲て京都に上ぼつて療養せられたのであるが遂に京都で寂せられた。

禪師は宋より歸つて後、二十六年間に互つて垂示し著作せられたものは、凡そ十三部、一百二十餘卷傳はつてゐる。ここに禪師の精神生活が、日本の文化の歴史の上に、如何なる位置を保つか。禪師の人格事業を明白に説明してゐるものである。

道元禪師は、今日では、佛教諸宗の間にある曹洞宗と云ふ一宗の開山である。然かしそれは寧ろ禪師の期待したことであつたかどうであつたか。禪師は大乗佛教を傳持し、大乗佛教を弘通したのである。大乗佛教の精神を體得し、發揚したのである。大乗佛教と云ふのは、何であるか。禪師の垂示に依れば、吾等が生死を明らむることである。生とは何であるか。死とは何であるか。吾等は生と云ひ、死と云ふが、常にそれを客觀的に見てゐる。自分の生を見詰め自分の死を見詰め、そこに始めて宗教的意義が出るのである。吾等人類の價値が見得らるゝのである。吾等が自ら生の何たるかを領會し

て生き、死の何たるかを領會して死すると云ふところに、始めて生死を離るゝことゝなる。こゝに大乘佛教の修行がある。

私は敢て一言したい。物質的な差別的な貧富とか、貴賤とか、云ふものばかり見てゐては、吾等人類の本分が得られない。精神的な平等的な方面を省察して警覺し、始めて人類の本分が見得らるゝのである。

つまり物質的な貧富とか、貴賤とかと云ふものに執着してゐることは、即ち狂熱に燃えてゐるものであらう。そこからは、吾等人類の眞面目が徹見せられない、そこから脱然として轉回すべきである。

それで大乘佛教の意義から云へば、宗教の信仰は、吾等が自ら人類の本分を開見して、人格の完成を求めんとする最大最高の努力である。こゝに道元禪師の精神生活があるのでないかと思ふのである。

宗教は阿片であると云ふ者があると云ふが大乘佛教の意義から見れば、宗教は阿片でなく、キニネであると云ひたい。阿片は魔酔劑であるが、キニネは解熱劑である。大乘佛教は、物質的な差別的な執着の狂熱を解消するものである。そこに始めて人類の本分が開見せらるゝのである。

日本の文化の歴史には、深大なる精神方面がある。歴代に互つて精神的偉人が出てゐる。今日吾等は、まづこの歴史的事實を解釋すべきである。こゝに道元禪師を記念し、最後にこの一言を添へたい。

此一篇は、余がかつて東京放送局で放送したる講演の要領である。今本誌に掲ぐるに際し、仔細に修訂する餘裕がなく、甚だ本意でない。讀者の寛恕を請ふのである。